

ボルドール24時間耐久ロードレース

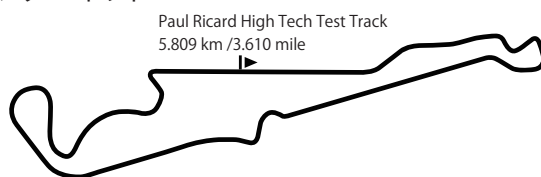
フランス・ポールリカールサーキット

9月15日

フリー走行 / 6番手

予選1回目 / 7番手

ナイトセッション / 4番手



2輪の世界耐久選手権(EWC)の2016-17年の新シリーズの開幕戦が、今年で80回目を迎えるボルドール24時間耐久(フランス・ポールリカールサーキット)で行われます。

フル参戦を表明、世界タイトルを目指すトリックスターは出口修、井筒仁康、エルワン・ニゴンのラインナップで挑みます。フランス人ライダーのニゴンが、この参戦のために力を尽くし準備を整えライダー、スタッフを迎え入れてくれました。トリックスターは鈴鹿8時間耐久参戦後、メカニックは休むことなくマシンを仕上げるために働き続け、その少数精鋭のスタッフにニゴンが集めてくれたフランス人メカニックを加え新たな戦いに出来る限りの環境を整えて来ました。

その舞台、ポールリカールは南フランスの風光明媚な海沿いにあり、5.719kmのコースには長いミストラルストレート(1.8km)がある高速コースです。

ミストラルはフランス南東部に吹く地方風の呼び名で、その名の通り強風が吹くことがあり、1日の中で寒暖の差が激しく、ライダー、チーム、マシンにとって過酷な戦いが繰り広げられることで知られています。

事前テストではニゴンがトップタイムを記録して好発信、大きな手応えを得てレースウィークにチームスタッフが顔を揃えました。9月13日火曜日にフリー走行をこなし15日に予選1回目が行われました。14日には雨が落ち、15日の朝方には曇り空でしたが次第に青空が顔を出し晴れました。気温は20度前後と過ごしやすい天候となりました。9時30分~11時30分までのフリー走行をこなしトリックスターは6番手に付けます。

午後からは予選1回目が行われブルーニゴン、イエロー出口、レッド井筒と色分けされた腕章をつけて各ライダーが20分という短いタイムアタックをこなしました。ニゴンは1分58秒416でトップタイムをマーク。出口は1分59秒870で4番手タイムを記録しますが、終盤で転倒してしまい、自力でピットに戻りますが、メインカーを傷つけてしまいます。セカンドカーで井筒が走行し2分01秒864で17番手となりました。3人の合計タイムでトリックスターは7番手。

幸い出口には怪我はなく、マシンはフレームにクラックが入り、スクリーンが割れてしまうという状況ですが、懸命な修復作業を行います。

午後8時30分から9時30分まで行われたナイトセッションではトリックスターは4番手につけました。トップはGMT94ヤマハ2番手に昨年のEWCチャンピオンズズキエンデュランスレーシングチーム、3番手にヤートヤマハオフィシャルEWCチームとEWCの名門チームに次ぐポジションを得ました。

エルワン・ニゴン

「日本は僕にとって第二の故郷になりました。トリックスターのライダーとして鈴鹿8時間耐久を2年連続で走ることが出来、チームのみんなと出会えたからです。このチームでEWCを戦えることになりとても光栄です。

チームの力が発揮できるように懸命に準備を整えました。鈴鹿8耐は多くのファクトリーが走る特別のレースですが、ここはみんなプライベートチームが参戦しています。力が拮抗しているので絶対にチャンスがあります。力を合わせて表彰台に上りたい。僕はルマン24時間耐久では勝ったことがありますがボルドール24時間ではない。

トリックスターで、その願いが叶うなら最高です。ポールリカールはとても難しいコースですが、最善を尽くします」

出口修

「EWCフル参戦は夢でもあり、世界チャンピオンを目指すことが出来ることは光栄なことです。でも、まずは目の前のレースを懸命にこなすことが大事だと思っています。ポールリカールは長いストレートを有効に使い高速コーナーを攻略することがタイム短縮の鍵。

しっかり確実に走ろうと思っていたのですが、転倒してしまい、チームの足を引っ張らないという約束を破ってしまいました。本当に申し訳なく思いますが、気持ちを切り替え、挽回してチームに貢献出来るようにします」

井筒仁康

「トリックスターとして初めての挑戦となったル・マン24時間耐久の時はスタッフとしての参戦となり、ライダーとして走るのは初めてです。カワサキワークスライダー時代、18年前にボルドール24時間耐久は経験していますが、コースは変わってしまい、知っているコーナーは2つだけ。どこが走行ラインなのか掴み辛く攻略に時間がかかるという印象。

ですが、走る度に慣れてきています。ニゴンが懸命に準備してくれ、トリックスターはアジアのレースを経験して海外レースでのノウハウを蓄積したことなど、チーム力が上がっています。それを結果に結びつけられるようにしっかりと挑んでいきます」

鶴田竜二監督

「念願のフル参戦が叶い、開幕戦に挑めることを感謝しています。準備にはニゴンが力を貸してくれ、ニゴン、出口、井筒と、私が願ったライダーたちが参戦してくれることになりました。ルマン24時間耐久に参戦時(9位)の悔しさがずっと心の中にありました。準備不足だった点を見直し、アジアのレースで学び、3年をかけて、ここにたどり着けました。僕の人生を賭けた挑戦です。

鈴鹿8時間耐久後、スタッフは休みなく働き続けて準備を重ねてきました。

ぜひ、結果に結びつけたい。予選では転倒がありましたが、何事もなくレースが進むことはありません。

出口に怪我がなかったことが1番です。マシンをしっかりと修復して最終予選に挑みます」